

編集後記

まごまごしているうちに夏を迎え、皆様には御迷惑をおかけしました。今号はすべて論説となりました。

巻頭の八木氏の『戦国大名大友氏の「方分」について』は大友氏独特の領域支配機構のひとつである方分についての説明があり、梅野氏の『大友氏領国における公領の成立と展開について』は大友氏の土地支配方法のひとつである公領について述べたもので、いずれも大友氏の支配制度についての論考です。また、甲斐氏の『大名小川左馬助と「豊後国慶長国絵図」』は、小川左馬助が大名か代官かを史料をもとに考察し、慶長国絵図の記載との関係を指摘されています。武田氏の『沖繩疎開と大分県庁』は太平洋戦争中の沖繩県から大分県への疎開の実態を丹念に掘り起こしたもので、今までほとんど知られていなかった史実が明らかになりました。今号は若手の活躍も目立ち、今後の大分県地方史の研究がより一層発展するものと期待されます。

(段上)

大分県地方史 第一八八号

平成十五(二〇〇三)年八月二五日 印刷
平成十五(二〇〇三)年八月三〇日 発行

編集者 段上達雄

発行者 豊田寛三

印刷者 廣永晴巳

大分市大手町二丁目三一四

印刷所 有限会社舞鶴孔版

(五五三二一四二三一)

発行所

〒八七〇一一二四

大分市且ノ原七〇〇

大分大学教育福祉科学部国史研究室内

大分県地方史研究会

(振替・〇一五八〇一二一五二九四)